



国民の森林・国有林

西都児湯森林管理署新庁舎が落成 地域に愛される国有林に！

昨年8月から国土交通省九州地方整備局鹿児島管轄事務所の発注により工事を進めていた西都児湯森林管理署の庁舎がこのほど完成し、7月24日に披露式を行いました。

◆建物の概要

敷地面積：1672.58m² 建築面積：425.90m² 構造：木造（一部CLT工法）
木材使用量：構造材57.6m³ 造作材（内装材）48.2m³

【西都児湯森林管理署】新庁舎は、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に基づき木造で設計・施工し、特に、新たな木材需要の創出が期待されるCLT※①を会議室等に活用するよう取り組み、CLTパネル工法を採用した初めての森林管理署庁舎となりました。

新庁舎の建築に当たっては、「すべての人にやさしい木造庁舎」をコンセプトとして、周辺環境と調和した施設づくり、地球環境にやさしい施設づくりを目指すとともに、木



新しくなった西都児湯森林管理署庁舎

材（CLT）の積極的な活用、木造庁舎における庁舎性能の確保、航空機騒音への対応を図りました。神話の国で知られている宮崎県には、「古事記」「日本書紀」に描かれる神話のハイライトと言える舞台の地が多くあります。署が所在する西都市もその一つで、今年5月に宮崎市、新富町と共に古墳群が日本遺産に登録されました。

新庁舎に隣接する都萬（つま）神社は、「記紀（きき）の道」※②の起点とされています。都萬神社の参道の景観に配慮し、緑に映える均整のとれた屋根を基本としており、まちづくりの方針と調和のとれた庁舎となっています。



看板を掛ける原田隆行九州森林管理局長（右）金井正典西都児湯森林管理署長

施工状況が一部見えるようにしております。森林資源が利用期に入り、森林・林業に係る新しい仕組みも動きだそうとする中で、新庁舎での業務がスタートしました。西都児湯森林管理署は、一ツ瀬川流域の1市5町1村の国有林約2万7千ヘクタールを管轄しており、地域の森林・林業の課題に率先して取り組み、また、積極的な情報発信をしながら、新庁舎を十分に活用し、地域で愛されるように努めていくこととしております。

※①CLTとは、Cross Laminated Timber（直交集成板）。ひき板の繊維方向が層ごとに直行するように重ねて接着したパネル。※②記紀とは、古事記と日本書紀の総称。「記紀の道」は、天照大御神（あまてらすおおみのかみ）の孫、邇邇芸命（ににぎのみこと）とその妻、木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）夫婦のお墓と言われている男峽穂塚（おさほづか）、女峽穂塚（めさほづか）までの約4キロメートルの道。

西日本豪雨災害に伴い林野庁職員を派遣 山地災害対策緊急展開チーム出発式

平成30年7月豪雨により、西日本の広域で山腹崩壊、土石流等による甚大な被害が発生し、民有林・国有林における二次災害の発生防止と早期復旧が求められているところです。

このような中、林野庁では、愛媛県から、山地災害発生箇所
の現地調査や災害復旧事業に関する技術的助言などに関して、支援要請を受けました。

治山課

九州森林管理局では、平成29年7月九州北部豪雨の経験等を踏まえ、今回の豪雨において全国で初めてとなる山地災害対策緊急展開チームを編成し、治山課井勝吉設計指導官、木倉浩二



出発の挨拶をする派遣職員

調査設計係長の技術職員を派遣することとなり、7月25日、九州森林管理局において出発式を開催しました。



職員を代表し激励する原田局長

原田隆行九州森林管理局長から「昨年の九州北部豪雨の経験を活かして頑張ってもらいたい」との激励があり、派遣職員からは「持てる技術を活かし、復旧の役に立ちたい」と決意があり、愛媛県に向けて出発しました。

大分森林管理署

当署からは、治山グループの中村健一治山技術官を派遣し、その出発に際し7月25日、当署会議室において出発式を開催しました。

坂本和隆大分森林管理署長から、猛暑の中ではあるが、被災地の一日も早い復旧等に資するため、しっかりと業務を遂行して欲しい。また、現地被災森林は足下が不安定なところもあると思うので安全作業に十分留意して現地調査等に頑張ってもらいたいと激励し、中村治山技術官から、被災された方への思いと胸が痛むが、早く現地へ入り被害の現状を把握し、被災された方の日常生活が一日でも早く戻るように頑張ってくださいと挨拶をしました。

当署治山グループの井孝好総括治山技術官、平山由希子治山技術官からも、厳しい暑さの中ではあるが被災地の復旧・復興のため頑張ってもらいたいと述べ、そのあと愛媛県へ出発しました。



坂本署長より安全ベストを貸与

平成30年度九州各県との意見交換会を開催 地域の森林・林業における課題等について意見交換

5月23日の福岡県との意見交換会を皮切りに、「平成30年度各県との意見交換会」を開催しました。

この意見交換会は、森林管理局、署の民国連携を担当する主要な職員が、各県の林業担当部局を回り、相互に当年度の取組についての意見交換、連携の提案をすることにより、地域と国有林野事業の連携強化を図るため、毎年開催しているものです。なお、佐賀県については平成30年7月11日に開催予定でしたが「平成30年7月豪雨」により現地調査等の対応を優先させるため、9月に延期しております。

意見交換会では、各県とも来年4月から施行される「森林経営管理法」に基づく「新たな森林管理システム」や「森林環境譲与税（仮称）」の使途、市町村支援等に関する関心が高く、これらの意見交換や情報交換を行いました。

それ以外の各県からの主な発言内容については次のとおりです。

【福岡県】▼これまでシカ被害がないとされていた築後川以南にも出てきており、効率的な捕獲を進めることが必要。▼IIC

Tの活用を進めていきたいが、具体的なイメージが出てこない。国と連携して進めていきたい。



福岡県との意見交換の様子

【長崎県】▼特に対馬での造林事業への新規参入を進めることが課題。▼ヒノキ少花粉コンテナ苗が不足しており、増産・確保が課題。

【熊本県】▼現在ある林業担い手研修を再編し、平成31年4月に「くまもと林業大学校（仮称）」を開講し、担い手育成を図っていく予定。▼低コスト造林を目的し、下刈りの方法等できるだけ省略化することが課題。

【大分県】▼素材生産と併せて再造林を進めることが重要であり、主伐・再造林を一体的に進めるため①システムづくり②苗づくり③人づくりを3本柱とし

て対策を講じていく。

【宮崎県】▼宮崎林業大学の開講にむけ、宮崎林業大学サポーターチーム（仮称）を結成するので協力願いたい。▼県内各振興局単位での意見交換会（山会議）をお願いしたい。

【鹿児島県】▼苗木の安定供給や林業の労働力問題が課題。▼県の森林総合監理士が17名おり、今後どのように国と連携・調整して市町村行政に対する技術的支援を進めていけば良いか、引き続き協力を願いたい。

【沖縄県】▼熊本南部署の「低コスト造林実証試験地」箇所を視察したい。



長崎県との意見交換の様子

九州森林管理局では、今回の意見交換会のご意見やご要望を踏まえつつ、各県との連携により、林業の担い手、低コスト造林、シカ被害対策等の取組を進めて参ります。

（担当II企画調整課）

コンテナ苗供給調整会議及び生産技術向上検討会を開催

九州森林管理局では、7月18・19日の2日間で「平成30年度コンテナ苗供給調整会議及び生産技術向上検討会」を日田市で開催しました。

これは、主伐・再造林の推進に伴い、造林事業の低コスト化への期待が高まっているコンテナ苗の需給調整と生産者の育苗技術向上を図ることを目的としたもので、九州森林管理局では平成25年度から毎年開催しています。

当日は、九州各県の樹苗生産組合、県林務担当者及び研究機関、森林総合研究所九州支所、林木育種センター九州育種場、森林整備センター九州整備局、日本森林技術協会、大分西部、大分森林管理署、当局の職員など105人が出席しました。

コンテナ苗供給調整会議では、鎌田敏雄森林整備課長が「九州が牽引する林業の成長産業化（再造林コストの低減、シカ被害対策のための中苗の活用）のために、苗木生産者の皆さんのコンテナ苗の確実な苗木提供が重要であると考えていますのでご協力をお願いしたい」とあい

さつ。その後、松下俊二造林係長からは、平成30・31年の各県苗連の出荷量を基に、民有林・国有林の需要見通しを示しながら関係者による苗木調整を行いました。

引き続き、生産技術向上検討会を開催し、桑原英隆技術普及課長が「九州地域における林業の成長産業化の実現には伐採後の再造林を確実に行う必要があります。造林も含めたコストの低減を図ることが極めて重要と考えている。このためにはコンテナ苗の技術向上は極めて重要な課題と考えているので、研究成果の情報も含め関係者の皆さんと情報を共有し育苗技術が更に発展するよう期待する」とあいさつ。

その後、森林総合研究所九州支所の野宮治人氏から「中苗の可能性について」、林木育種センター九州育種場の久保田正裕氏から「特定母樹の特性について」、大分県農林水産研究指導センター松本純氏から「スギの育苗資材別植栽試験について」の話題提供があり、多くの意見・質問が寄せられるなど活発な検

討会となりました。



調整会議及び検討会の様子

翌日は玖珠町内万年山（はねやま）原野組合が所有の水源地造成事業地（森林整備センター九州整備局設定）において、九州整備局と林木育種センターが共同でエリートツリーや特定母樹等の成長に優れたスギ苗木を植栽した場合の下刈り施業等のコスト削減に向けた実証成果について担当者による説明があり、活発な意見交換を実施しました。意見交換後、桑原課長が締めあいさつを行い、全日程を終了しました。

（担当II森林整備課、技術普及課）

環境省と九州地方連絡会議を開催

7月25日、九州森林管理局大会議室において環境省九州地方環境事務所と28回目となる「九州地方連絡会議」を開催しました。

会議では、林野庁と環境省が緊密な連携、調整の下に円滑な行政を行うために設置され、当局から井口真輝計画保全部長他17人が、環境省から河原武統括自然保護企画官他15人が参加しました。

会議では、当局から保護林の現況・各種事業及びシカ被害対策、レクリエーションの森等について、環境省から国立公園満喫プロジェクト等公園事業及外来種の対策、希少野生動物植物の保護などについてそれぞれ説明し、意見交換しました。

（担当II計画課）



会議場にて意見交換の様子

菊池市・大津町地域森林整備 推進協定運営会議を開催

【熊本森林管理署】6月11日、当署会議室において、菊池市・大津町地域森林整備推進協定運営会議を協定者である熊本森林管理署、菊池市、大津町、菊池森林組合の関係者9名が参加し実施しました。



会議上で取組の説明をする森署長

運営会議では、森勇二熊本森林管理署長が協定者を代表して「協定の目的である民有林と国有林が連携し森林整備に取り組みむことが重要であり、本年度は民・国路網連結等の実現に向けた協議を進めるとともに、森林3次元計測システム（OWL）等の現地検討会を予定しており、さらに民国連携を強めて参りました」との挨拶に始まり、各協定者から平成29年度の取組実績、平成30年度の取組予定の報告・

確認がなされました。

その後、事務局より森林共同施業団地における民・国路網連結や次期協定書の継続に係る話題提起がなされ、本年度から来年度にかけて民・国路網連結の実現や協定の継続に向けた協議等を行うことを確認しました。

最後に、次世代造林プロジェクト（低コストモデル実証団地）、安定供給システム販売、特定母樹（スギ九育2-203）などについて情報提供がなされ運営会議を終了しました。

ドローンを利用した架線設置の 省力化実証試験を実施

【熊本南部森林管理署】6月22日、(株)泉林業(熊本県人吉市)並びに(一財)日本森林林業振興会共催の下、五木村の民有林にて、「ドローンを利用した架線設置の省力化実証試験」を実施しました。

今回の実証試験は、タワヤーの主索設置について、通常リードロープを人力で引き回していることがほとんどであり、多大な労力を要していることから、労働強度の軽減及び安全性の向上等を図るため、ドローンを活用した実証を行いました。手順としては、ドローンでバ

インダの紐を先山まで運搬し、循環索を設置しタワヤーの動力(ドラム)により4ミリのナイロンロープへ変更し同様に10ミリのリードロープへ変更できなにか実証したものです。当日は、天候にも恵まれ、特にトラブルもなく無事終了し、条件が整えば可能との結果になりました。



ドローン実証試験の様子

なお、この模様は7月9日、当署の会議室にて検討会を開催し、五木地域森林共同施業団地関係者や熊本県並びに九州森林管理局の職員等約40名の参加の下、ビデオや写真等で説明を行った後、意見交換を行い、改善点やドローン操作等について活発な意見等があり、参加者の熱心さがうかがわれました。当署としては今後も様々な機会を捉え、情報提供等をしていくこととしています。

九州育種場で育苗 技術を学ぶ

【屋久島森林管理署・屋久島森林生態系保全センター】当署及び保全センターにおいては、昨年設立された屋久島地杉苗木生産協議会に対して屋久杉種子の提供や挿し木コンテナ苗の研修会開催などの支援を行っているところですが、6月21日から22日に苗木生産協議会会員6人が育苗技術の更なる習得のために林木育種センター九州育種場を訪問するに際して、当署の一口竜也森林技術指導官、吉村浩一主任森林整備官と保全センターの奥村克生生態系管理指導官が同行して助言等を行いました。

21日は九州育種場での佐藤英章場長の挨拶、久保田育種課長の育種場の業務概要説明を受けた後、佐藤省治遺伝資源管理課長から育種場の場内案内を受けました。22日は佐藤省治遺伝資源管理課長、大塚次郎育種技術専門役から、実生苗、さし木苗の生産方法等の説明、生産方法の留意点など実践的な実技指導を受けました。

参加者は育種場の最新鋭の施設や育苗技術を学ぶことが出来て、今後の屋久島での育苗に役

立てるように心を新たにしています。



苗木の生産方法の指導を受ける

当署及び保全センターとしては、引き続き鹿児島県、屋久島町の行政機関、さらには屋久島地杉苗木生産協議会と民・国連携しながら屋久島における苗木生産技術の確立に向けて取り組む考えです。

山岳ガイドがボランティア 活動を実施

【屋久島森林管理署・屋久島森林生態系保全センター】6月28日に、屋久島内で活動する屋久山岳ガイド連盟など3団体の山岳ガイド19人の方々が、日頃から縄文杉等への登山客を案内する際に利用している小杉谷休憩舎の清掃と屋根補修のボランティア活動を実施しました。当日は、当署から山邊隆広総括森林整備官、井誠喜森林官、

三國稔典地域技術官、保全センターから古市真二郎所長、永山博美自然再生指導官も参加して、ガイドの皆さんと休憩舎の壁やテーブル、ベンチに張り付いた苔等をブラシで清掃、また最大の課題であった屋根の雨漏り箇所には屋久島地杉の平木を用いて補修しました。

ガイドの皆さんの懸命な作業の結果、休憩舎は見違えるように綺麗になるとともに、雨漏り箇所も修復され雨の多い屋久島において引き続き観光客に心地よく利用して頂けるようになりました。



補修を行うボランティアの方々

今回の取組は、国有林職員とガイドの方々との意見交換を進め、ガイド団体として国有林内のボランティア活動を実施して頂いたものであり、これを機会に登山道等の危険箇所の修繕等のボランティア活動を継続したいと

のことでした。また、当日の作業状況についてはマスコミ2社の取材を受け、山岳ガイドと国有林の取組について地元をはじめ広く県民にPRすることが出来ました。



参加したボランティアの方々と職員

安全大会を開催する

【大分森林管理署】7月2日、大分森林管理署会議室において平成30年度安全大会を本署、各森林事務所所属職員出席のもと開催しました。

はじめに、坂本和隆大分森林管理署長から、本年度の安全週間にあたり昨年度の災害発生等を踏まえ、「重大災害の絶滅」、「ゼロ災の達成」、「心とからの健康」の保持増進の3点を本年度の健康安全管理重点目標として取り組んでいるところです。本日の安全大会等をあ

らためて機会としてとらえ、健康で災害のない明るい職場作りに引き続きみんなで取り組もうと挨拶。

挨拶のあと、原田隆行九州森林管理局長からのメッセージを坂本署長が代読して出席者に周知を行いました。

また、多数応募(59点)のあった安全標語の中から、「みのがすな かくれた危険 みんなで摘み取り 安全作業」(山本克郎総括事務管理官)など入選作6点の発表を行いました。

つづいて、一般救急講習として、日本赤十字大分県支部から高木氏を講師に招き、救急法の講習をいただきました。



救急法の講習を受ける職員

自分自身を守りながら、けが人や急病人を正しく救助し医師又は救急隊などに引き継ぐまでの「一次救命処置」と「応急手当」の赤十字救急法を学びまし

た。実践を想定した訓練では、救助者自身が守るべき事項や手当する場合の反応、呼吸・脈拍の状態など基本的事項を実践、AEDの使用手法など緊急事態に遭遇した場合の手当の基本を学びました。

交通法令講習では、大分中央警察署から古城巡查部長を招き、「危険予測」をテーマにして映像・装置を使った講習を受講しました。

横断する歩行者への配慮、水たまり、落物物がある場合の自転車・歩行者の動きに注意するなど車を運転する場合の注意点について個々のシーンに潜む具

体の危険を職員に問いかけながらの講義があり、「危険予測」について全員で学びました。おわりに、山元義希技官が「安全宣言」を読み上げ、田吹涼太技官が「ゼロ災コール」を行って、本年度の大分森林管理署ゼロ災を目指して取り組むこととしました。

屋久島地域森林整備推進協定の第1回運営会議を開催

【屋久島森林管理署】7月4日、屋久島地域森林整備推進協定の平成30年度第1回運営会議を、協定者である当署、屋久島町、

鹿児島県森林整備公社、屋久島森林組合の関係者19人が参加して、島内に設定した森林共同施業団地の北部地区の現地で開催しました。



林道工事箇所で概要説明する職員

まず現在当署が開設中の奥岳252林道施工箇所の現場において、一口竜也森林技術指導官の司会進行により、冒頭川畑充郎屋久島森林管理署長の挨拶の後、各協定機関から平成29年度の事業実績及び平成30年度の事業計画が報告されました。また当署から、これまでの奥岳252林道の施工経緯と本年度分の施工概要を説明し、本年度の施工で鹿児島県森林整備公社の既設作業道に連結することになり、本協定の大きな成果になるとともに今後の民国連携した森林施業に繋がること等を説明しました。

続いて民有林の間伐事業箇所

の現場に移動して、屋久島森林組合の寺田久志総務課長より間伐事業の実施状況等の説明を受けたのち、最後に参加者全員で今後の屋久島全体の事業量の確保や主伐・再造林の促進等について活発な意見交換を行い、有意義な運営会議となりました。

新宮高等学校が楯の松原保全をボランティア体験

【福岡森林管理署】平成30年6月28日、福岡県立新宮高等学校の2年生395名が、町内の「楯の松原」（下府浜国有林45林班）において、防風・防砂・防潮の役割を担っている楯の松原を長年にわたり育て、維持してきた先人たちの苦労や松原保全の大切さを理解することを、目的として松林内の雑木の除伐作業に取り組みました。

当日は、梅雨まっただ中で雨も心配されましたが生徒たちの活気で、最後まで天気も崩れることなく、曇り空の蒸し暑い日ではありましたが作業日和になりました。

はじめに、「筑前新宮に白砂青松を取り戻す会」桐島誠会長から挨拶、崎野健輔福岡森林管理署長から「今回の体験や8月11日の山の日などを通して森林、

山に親しんでほしい」とのメッセージ、防犯パトロール隊から諸注意、木村賢二教頭先生から話がありました。その後、福岡森林管理署職員7名のほか新宮町役場職員15名、「筑前新宮に白砂青松を取り戻す会」会員6名、環境・防犯パトロール隊10名など地域のボランティアの作業指導の下、生徒たちは、作業区域ごとにクラスで移動し、松林の中で蜘蛛の巣や虫におっかなびっくりしていた生徒も勇気を出して木に近づき、大きな藪にも果敢に挑み、雑木などの伐採や集積作業に汗を流しました。

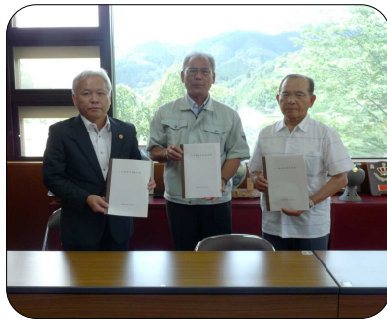


作業活動する高校生達

生徒たちは作業を終えて「きれいになった」、「大きな木を切り出した」と仲間たちと嬉しそうに話していました。今回の体験が身近にある松林やそれを守る活動への関心につながることを期待しています。

シカ被害対策協定を南郷町と締結

【宮崎北部森林管理署】平成30年7月9日、美郷町役場南郷支所において、宮崎北部森林管理署、美郷町及び美郷町有害鳥獣対策協議会南郷狢友会の関係者が出席し、シカによる美郷町の農林作物等への被害を防止するために三者によるシカ被害対策協定を締結しました。



三者による協定を締結

調印式後、黒木慶次郎宮崎北部森林管理署長から今回の協定締結の意義とお礼の挨拶があり、田中秀俊美郷町長からは、「シカは農林作物への被害だけでなく森林生態系にも影響を及ぼしており、これからも三者で協力しシカ被害対策に取り組んでいき、捕獲したシカ等については「ジビエ肉」として活用して

いきたい。との挨拶がありました。

宮崎北部森林管理署管内では、今回で5協定目であり宮崎県北部はもとより宮崎県の農林業被害や生態系被害の防止のために関係市町村等と連携しシカ被害対策を進めていきます。

田代原風致探勝林の修景伐採を検討

【長崎森林管理署】5月30日、田代原風致探勝林の修景伐採を行うため、「雲仙田代原レクレーシヨンの森運営協議会」の関係者と現地検討会を開催しました。田代原レクレーシヨンの森は、雲仙天草国立公園第2種特別地域にあるため年間利用者数が約3千人あり、数多くの高山植物や動物に加え、近隣の各峰の山頂からの眺望景観が素晴らしいことから、長崎県営のキャンプ場も設営されています。

平成30年度において「森林景観を活かした観光資源の創出事業」での修景伐採や標識類の整備を計画していることから、レクレーシヨンの森運営協議会と合同で現地検討会を開催し、遊歩道脇の雑木を伐採することにしました。

この事業が終了した後は、春のミヤマキリシマ、夏のヤマ

ボウシ、秋の紅葉、冬の霧水等四季折々の風景をたくさんの方に見てもらいたいと考えています。



田代原風致探勝林の風景

請負事業者の安全大会に参加

【長崎森林管理署】6月26日、熊本林業土木協会北部九州支部の安全大会が、佐賀県神埼市の神埼建設業協会会館で会員の10社が参加し開催され、福岡森林管理署、佐賀森林管理署、長崎森林管理署、局島栖治山事業所も発注者側としてのセロ災を願って参加しました。

大会は、牟田正明北部九州支部長、秋山郁男長崎森林管理署長の挨拶から始まり、発注者の立場から佐賀森林管理署古島勝美次長、局島栖治山事業所井孝次災害対策専門官による安全指導、(資)小場組からは安全活動

の事例発表が行われました。
午後からは、開催地管轄である川部静也佐賀森林管理署長の挨拶後、建設業労働災害防止協会佐賀県支部の前田清指導員からの安全講話、熊本林業土木協会の森本義春事務局長から近況報告が行われ、崎野健輔福岡森林管理署長から大会の総括が行われ、最後に協会員が請負事業の災害ゼロの安全宣言を行い安全大会が終了しました。



安全講話を熱心に受講する方々

五島市ケーススタディ 地区の取り組み

【長崎森林管理署】6月14日、五島市の国有林野内の造林事業請負箇所において、長崎県五島

振興局、五島市の林務担当職員と現地検討会を行いました。

五島市においては、これまで民有林での皆伐がほとんど実施されていないことから、造林事業の現場を見る機会がなかったため、五島市と五島振興局から下刈作業の現場を見たいとの要請に応え、当署の福江森林事務所管内の造林請負事業の現場において、下刈作業を見学し、作業の方法や回数、安全作業の指導方法、造林コストの削減等について意見交換を行いました。五島振興局や五島市の担当者は、下刈作業の現場を見るのは初めてのことと、今後の造林施業に役だてたいと、秋吉新二首席森林官や請負事業体の現場代理人から作業の注意点や苦労点を真剣に聞き取っていました。



現地概要を説明する首席森林官

今後とも国有林内での現地検討会を継続していくことを確認し、検討会を終了しました。

宮崎県林務担当者と 「顔が見える関係」に

【宮崎北部森林管理署】宮崎県東臼杵農林振興局、宮崎県林業技術センターとの意見交換会を7月10日に当署で開催しました。この意見交換会は、県と国の行政担当者がお互いに「顔が見える関係」を築くことにより、地域の森林・林業再生の活性化を目指すことを目的として3年前から行っているものです。



意見交換会の様子

宮崎県東臼杵農林振興局からは、木質バイオマスの活用推進事業や山村地域の活性化に向けた取り組みについての情報提供があり、宮崎県林業技術センターからは、スギ50年生以上の蓄積量を明らかにする取組、来年度開校する、みやざき林業大学校（仮称）の研修生の募集状況の説明がありました。

特に国有林に対しては、国有林が行っている低コスト林業への先進的な取組やフィールドの提供について協力依頼があり、当署としてもこれに対し出来ることは全面的に協力することにしています。

意見交換会後の懇親会も含め、県と国の林業担当者の連携が深まった有意義な会議となりました。

「森を身近に！」 森のセミナーを開催

【熊本南部森林管理署】当署会議室において、6月30日、山の日記念イベント「森を身近に！森のセミナー」（当署主催、球磨地域振興局共催）を開催しました。

講師には環境省希少野生動物種保存推進員の乙益正隆氏を迎え、一般参加者及び当署職員など26名が参加しました。

はじめに「コケ玉作り」に挑戦しました。ミスゴケを丸めて、オオタニワタリ、イワオモタカ等の苗を植え、参加者の想いがこもった大小様々な個性的な作品ができました。

続いて、「モチノキを庭に植えると金持ちになる」等「樹木と人とのかわり」について、

スライドを使つての講話があり、植物を守り一種でも多く次世代に残そうと呼びかけられ、保護の大切さを再認識させられました。



コケ玉作りに挑戦

地域の安全確保に向けた森林情報の共有及び長期的な森林の育成に関する協定に係る調印式

【鹿児島森林管理署】7月9日、日置市役所において、日置市長と鹿児島森林管理署長の間で「地域の安全確保に向けた森林情報の共有及び長期的な森林の育成に関する協定」に係る調印式を開催し、関係者及び報道関係者など12人が出席しました。

はじめに、当署福山総括地域林政調整官から協定に至る経緯や趣旨についての説明を行った後、宮路高光日置市長と山口輝文鹿児島森林管理署長が協定書に署名、捺印しました。

調印の後、宮路市長から「先

週の豪雨は本市において災害はなかったものの、全国的に希に見る大きな災害が発生した。この調印式を契機に民有林・国有林が森林の管理・情報を共有しつつ、台風などの災害時には、担当部署が連携を密にして取り組んでいくことが重要」との挨拶がありました。



調印後の記念撮影

続いて山口署長から「森林の管理・育成あるいは災害時の窓口を明確にし、お互いが情報共有しながら、早期の復旧に努め、住民の安心・安全の確保に貢献していきたい」と今後の支援と連携について挨拶し、調印式を終了しました。

林業事業体と共に生産性向上検討会を開催

【屋久島森林管理署】当署では、森林整備事業（活用型）等にお

ける林業事業体の生産性向上を図るために、本年度より受注した全ての林業事業体で日報による生産管理を進める取組を実施しています。

このような中7月10日、日報による生産管理、分析に係る知識の習得等を目的に、局の石神智生地域木材情報分析官を講師として、当署職員をはじめ島内の林業事業体、鹿児島県屋久島事務所、屋久島町等の民有林関係者の総勢26人が参加して、生産性向上検討会を開催しました。

検討会は、まず当署会議室において川畑充郎屋久島森林管理署長の挨拶の後、石神智生分析官から生産性向上のための日報管理の必要性や実際の日報管理計算様式の使い方等について指導を受け、その後、宮之浦嶽国有林に移動して現在実行中の森林整備事業（活用型）の現場に



現場において検討会の様子

において、山邊隆広総括森林整備官より作業状況等の説明を受けました。

参加者からは、「日報管理の必要性が良く理解出来て、今後とも積極的に取り組みたい」等の感想が聞かれ、引き続き日報管理を適切に行いながら分析を行い、少しでも屋久島における木材の生産性が向上するように努めていくことを参加者全員で確認することが出来て、有意義な検討会となりました。

「山の日」のPRを合わせて森林教室を開催

【長崎森林管理署】7月13日、「奥雲仙牧場の森（遊々の森）」において、NPO法人奥雲仙の自然を守る会と合同で八斗木（はつとき）小学校の3年生と4年生の17名を対象に森林教室を行いました。

当日は、当署の参加職員が山の日の法被を着用し、「山の日」のPRについても合わせて行いました。

最初に諫山雄一郎技官と高橋陽介技官が森林の持つ機能の一つである水源涵養機能について説明するため、「手入れを行っている森林の地面」「草木がなっている森林の地面」「コンクリートで覆わ

れた地面」の3つの状態を作った手作りの器具を用意し、子供たちがそれぞれにペットボトルに入った水をかけ、水の流れ方や水がどのように浸透していくのか観察を行いました。子供たちは、水を蓄える機能の違いに驚いた様子で見入っていました。

次に奥雲仙の自然を守る会から、遊々の森がある奥雲仙にどのような生き物などがいるのかについて説明があり、子供たちは5つの班に分かれ森を散策しながら、森林に生きている生物や草本の観察会をおこないました。子供たちは、森の中を縦横無尽に駆け回り、捕まえた生き物の名前を教え合うなど終始笑顔が絶えない状況でした。



熱心に聞き入る児童達

最後の発表では、「水を蓄える森林の大切さが解った。」「水を大事にしようと思った。」「森の中には色々な生き物がい

た。」などの感想が聞かれました。子供たちを通じて多くの人に森林に対する理解が深まってくれることを願いながら、森林教室を終わることができました。

島原市に眉山被災状況の説明を実施



現地において市長に説明の様子

【長崎森林管理署】7月10日、島原市眉山地区において、島原市の関係者と合同で先月末からの梅雨末期特有の集中豪雨と台風7号に加え、7月6日には長崎県を含む九州北部地域に大雨特別警報が発表され、この期間に島原地方でも時間最大雨量83ミリを観測し、山腹崩壊等の被害があったことから、島原市と締結している「地域の安全確保に向けた森林情報の共有及び長期的な森林の育成に関する協定」に基づき、古川隆三郎島原市長を初めとする地元関係者と長崎

森林管理署が眉山0溪く7溪を中心に見地確認を行いました。

当日は、これまでの天候とうって変わって晴天となり、田上誠総括治山技術官と吉田幸一治山技術官が眉山0溪と4溪の表面剥離の状況や治山施設が有効に機能している状況等を現地において具体的に説明しました。

古川市長は熊本地震以降、急ピッチで治山事業が進められた

ことに感謝され、このように早



治山施設（導流堤）機能を説明

期に必要な情報を共有し、住民に発信していくことが重要と話されました。

今後も地域住民の生活と安全の確保に向けた取組を続けていくことを確認し調査を終えました。

鹿児島大学の学生が 桜島の治山事業を学ぶ

【鹿児島森林管理署】鹿児島大

学からの依頼を受け、7月20日農学部農林環境科学科森林科学コースの3年生24名を対象に桜島地区民有林直轄治山事業の現場において研修会を開催しました。

当日は、湯之平展望所において杉野隆二次長から国有林、鹿児島森林管理の概要、古庄誠司総括治山技術官から桜島地区民有林直轄治山事業、江口晃主任

治山技術官から治山事業の主な



施工概要説明を聞き入る学生達

モニターの声



美濃田 恵一さん

40年近くのサラリーマン生活に終止符を打ち、生まれ故郷に「モニター」して、父から相続した森林（ヒノキ山）を管理しています。私が中学生、高校生の頃の実家の冬の仕事は山の木を伐り薪を作って出荷していました。当時は未だガスが普及しておらず、各家庭

森林再生への期待

では薪を燃料にして生活していたころです。冬休みになると父母と共に山に登り、切り倒した椎の木やクヌギなどの雑木をノコで長さ30センチくらいに切り、更に燃えやすいように斧で割って、篠竹で作った輪に束ねて出荷したことを覚えています。父母はこの仕事を毎年冬の仕事として続け、切った雑木の後にヒノキを植林して下草刈りや間伐をして今では40〜50年生に育ち、木の直径も30〜50センチに成長しています。このような森林が周辺にもたくさんあるのですが残念なのは管理されていない山がたくさんあることで

す。台風によって折れたり倒れたりした木が放置されているもの、蔦に巻かれて締めつけられているもの、間伐をしていないために竹のように細く一様に曲がっているもの等々山に植林されたスギやヒノキは見ると無残な姿をしているものが数多くあります。

また、最近見かけるのが鹿による被害です。植林して50年を過ぎた大きなヒノキが鹿によって樹皮が剥がされるのです（写真）。ヒノキは樹皮が一度剥がされるとその部分は以降成長しません。木の周りの半分以上の皮が剥がされると木は枯れてしまいます。

父母が苦勞して育てたヒノキが鹿によってダメになってしまふ状況を目の当たりにすると、木がかわいそうで、父母がかわいそうでなりません。私が中高生の頃には近くで鹿を見ることはなかったのですが、今では珍しくもありません。

国有林モニターになって九州森林管理局から多くの情報をいただきました。

「林業の成長産業化へ向けた九州森林管理局の挑戦」や「野生鳥獣と向き合う九州森林管理局の取り組み」を拝見すると、放任化している森林や鹿被害への対策



等もいろいろ取り組まれていることが分かります。これらの施策によって九州の森林が見違えるように再生することを期待します。私も父母から引き継いだわずかな森林しか持っていませんが、森林所有者の立場から国有林モニターを務めさせていただきます。

（熊本県甲佐町在住）

工法について、前田聖人技官から桜島の概要について説明を行いました。その後、引の平上流円形セルダム施工箇所へ移動し江島昭則治山技術官からセルダムの特徴である、コストの削減、工期短縮、現地土砂の有効利用等について説明を行いました。

多岐にわたる説明に対し熱心にメモをとる学生もおり今回の参加者の中から1人でも多くの学生が我が職場を希望されることを期待して研修を終了しました。

豊後大野市と地域の安全確保等に関する協定締結

【大分森林管理署】7月4日、豊後大野市役所において、豊後大野市長と大分森林管理署長の間で、「地域の安全確保に向けた森林情報の共有及び長期的な森林の育成に関する協定」を締結しました。（当署管内では2例目）

調印式では、中嶋紀光地域林政調整官の司会進行により、本協定の目的を説明をしたあと、川野文敏豊後大野市長と坂本和隆大分森林管理署長が協定書に署名を行いました。

豊後大野市の川野市長から、本市は総面積の74%が森林であり、その資源は着実に充実し利

用期を迎え活用する時期にきている。昨年は、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークに登録され、動植物などの生態系に関するデータを蓄積する活動にも取り組んでいきたい。

これまでも協力関係は出来ているが、本協定により明文化され、市から国、国から市への情報提供を深めることになり今後さらなる連携に期待すると挨拶。坂本署長から、本年3月、当地での地域林政対談を踏まえて、本協定を締結する運びとなりま

都会の中の憩いの森 監物台樹木園の多様な植物

全国のどこでも見られる落葉低木で、秋の紅葉が際立つ美しい樹木です。

枝は緑色で、無毛、後、硬いコルク質の4翼が発達する特殊な樹木で、対生の葉は短い柄を持ち、両面無毛、葉縁には細鋸



した。森林は、山地災害や土壌保全、水源涵養、環境の保全、木材の供給など、様々な役割を



協定締結を終え記念撮影

果たしています。本日の協定により、豊後大野市内のこの様な森林の異常や災害等について、お互いに森林情報の共有を図ることで連携した対応がより充実することにより期待すると挨拶。

本協定を機に、豊後大野市森林整備計画の策定等に関わるモデル地区としての取り組みがさらに推進するとともに、森林の様々な働きが持続され、森林・林業の発展と地域の振興に繋がるように取り組んでいくこととしました。

129 ニシキギ (ニシキギ科)

歯があり楕円形です。先端が尖り、基部は狭く楔形となっています。

初夏に、小さな四弁の花が多数咲きますがあまり目立ちませぬ。花は淡い黄緑色、葉腋に出る小型の集散花序1〜数个咲きます。普通心皮2個が発達するよう

で、1個の花から2個の種子を垂下したニシキギを多く観察できます。

果実は狭倒卵形、裂けると橙赤色の仮種皮に包まれた1種子が現れ、種子の大きさは3〜4mmと案外小さいです。（仮種皮とは種子の表面をおおっている付属物をいいます）



種子をツグミ、シジュウカラ、メジロ、コケラが好んで食べ、糞による鳥散布で分布を広げます。

名前は、秋の紅葉が美しいのでニシキギ（錦木）といえます。



今般の大雨等によりお亡くなりになった方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された全ての方々にお見舞い申し上げます。▼現地では連日の酷暑の中、懸命な復旧作業が行われています。このような中、7月25日から8月1日にかけて山地災害対策緊急展開チームとして九州森林管理局から3名の治山技術者を愛媛県に派遣し無事帰還された。技術の粋を尽くし復旧に貢献された事は同じ職員として誇りに思います。ご苦労様でした。▼酷暑と言えは今年の暑さは異常である。連日の報道で「危険な暑さ」「体温を上回る酷暑」と表現される。まさに危険な状態。さらには先日、異例のコースを進んで一回転したグルグル台風。地球は大丈夫なのかと思ってしまう。異例の暑さと異例の台風には異例の備えが必要なのだろう。▼つい「暑い暑い！」と愚痴をこぼすが、被災地での劣悪な条件の中、汗を流して活動するボランティアの方々を思えば恥ずかしい限りです。何のこれしき！で乗り切らねば。(S)